

令和7年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（算数科）

		低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数についての感覚を豊かにする。</li> <li>○数の意味や表し方について、理解できるようにする。</li> <li>○量の大きさについての感覚を豊かにする。</li> <li>○図形についての感覚を豊かにする。</li> <li>○数量やその関係を言葉、数、式、図などに表し、読み取ることができるようにする。</li> <li>○加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</li> <li>○乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法の意味について理解し、生活や学習に活用できるようにする。</li> <li>○時計の時刻の読み、○○時間前、○○時間後の時刻が理解できるようにし、生活や学習に活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。</li> <li>○除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</li> <li>○小数及び分数の意味や表し方について、理解できるようにする。</li> <li>○長さ・重さ及び時間の単位と測定について、理解できるようにする。</li> <li>○図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形や正三角形、円、球などの図形について、理解できるようにする。</li> <li>○数量やその関係を言葉・数・式・図・表・グラフなどに表したり、読み取ったりすることができるようにする。</li> <li>○数量や図形についての感覚を豊かにする。</li> <li>○身の回りの事象をデータの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力を養う。</li> <li>○数学的な見方・考え方を日常の場面のなかで活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○整数の性質についての理解を深め、根拠を持って説明できるようにする。</li> <li>○小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味についての理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</li> <li>○三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を、既習事項と結びつけて求めることができるようにする。また、図形を正確に描けるようにする。</li> <li>○測定値の平均及び異種の二つの量の割合について、生活の事象と関連付けて理解できるようにする。</li> <li>○平面図形についての理解を深めるとともに、角柱などの立体図形について、理解できるようにする。</li> <li>○数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて、他の資料と比較しながら資料の特徴を調べることができるようにする。</li> <li>○数学的な見方・考え方を働かせて課題を解決し、日常の場面で算数を生かす楽しさを感じられるようにする。</li> </ul>
	2年		<ul style="list-style-type: none"> <li>○除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。</li> <li>○小数及び分数の加法及び減法の意味を理解し、計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</li> <li>○概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。</li> <li>○面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができるようにする。</li> <li>○角の大きさの単位と測定方法について、理解できるようにする。</li> <li>○図形を、構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について、理解できるようにする。</li> <li>○数量やその関係を言葉・数・式・図・表・グラフなどに表したり、調べたりすることができるようにする。</li> <li>○一つの問題に対して多様な見方・考え方をもち、友達に伝えたり友達の考えを聞いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、図・言葉・式を関連づけて、正しく用いることができるようにする。</li> <li>○円の面積及び角柱などの体積を、習事項をもとに導き出し、説明することができるようにする。</li> <li>○縮図や拡大図、対称な図形について理解し、図形についての理解を深める。</li> <li>○比や比例について理解し、日常生活の事象から量の関係を見出して、関数の考えを用いることができるようにする。</li> <li>○文字を用いて式に表すことができるようにする。</li> <li>○資料の散らばりを調べ、身近なデータを題材に統計的に考察ができるようにする。</li> <li>○算数的な考えを日常生活の事象に生かしながら、学習に取り組むことができる。</li> <li>○数学を見据え、既習事項の定着を確実にできるようにする。</li> </ul>

		低学年	中学年	高学年		
児童の実態	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1から10の数字の読み書きは概ねできる。</li> <li>○「いくつといくつ」(数の構成の理解) やたし算、ひき算の定着には個人差があり、計算の際にブロックなどの具体物が必要な児童もいる。</li> <li>○操作では計算ができて、立式をすることができなかつたり、言葉での説明が十分にできなかつたりする児童がいる。</li> <li>○文章題の内容を理解し、問題場面を式に表すことは概ねできている。</li> <li>○計算はできるが、数の構成や計算の仕方の理解が十分でない児童がいる。</li> </ul>	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習内容を理解し、技能が身に付いている児童と定着が不十分な児童と二極化している。</li> <li>○問題が解けていても、自分の考えを説明することに対して消極的な児童と積極的な児童に二極化している。</li> <li>○学習した内容を用いてノートに自分の考えを記述することはできるが、それを相手に分かりやすく説明することについて、児童間の差が大きい。</li> <li>○問題を考える際に、解き方を技能として身に付けることはできているが、演算決定の根拠や説明が苦手な児童が多い。</li> <li>○時刻と時間についての知識の定着が不十分な児童が見られる。</li> <li>○既習事項の定着の差が見られる児童がいる。</li> </ul>	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題に対して、既習事項を用いて答えを出すことに意欲的な児童が多い。公式や解き方を理解しているが、既習事項を用いて解き方を考えて、なぜその解き方になるのか説明できる児童は少ない。公式につながる解法や単位の意味に結びつけていく。</li> <li>○課題に対し、自力解決できる児童が多いが、複数の考え方を出すことができる児童が少ない。</li> <li>○既習事項の定着の差が大きい。四則演算での計算ミスや、計算に時間がかかるため、課題に最後まで辿り着きづらい児童がいる。</li> <li>○自力解決の場面で、図や表を用いて、分かりやすく自分の考えを表現できる児童が増えてきている。</li> <li>○作図に苦手意識を感じている児童が多い。</li> <li>○用語の意味や定義を正しく理解して使っている児童が少ない。</li> </ul>

2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の仕方について、計算に時間がかかる児童も見られる。</li> <li>○問題を考える際に、解き方を技能として身に付けることはできているが、なぜそのような解き方をするのかを理解できている子とそうでない子がいる。</li> <li>○自分の考え方を説明するとき、絵や図を使って説明しようとする児童が増えてきた。まだ、分かりやすく説明するには難しさも見られる。</li> <li>○友達の式を読み取り、どのような場面が考えられるかを考えようとする児童が増えてきた。</li> <li>○数の感覚や計算にかかる時間の個人差が大きい。</li> <li>○長さや水のかさの単位変換が苦手な児童が見られる。</li> <li>○時刻と時間については、時刻の読みと〇〇時間前、〇〇時間後の理解ができていない児童が多い。</li> </ul>	4 年	6 年
--------	--	--------	--------

- 計算問題など意欲的に取り組むことができる。
- 問題に対し、図を手掛かりに解こうとする児童が多い。
- 一つの問題から複数の考え方を生み出すことのできる児童が増えてきた。
- 自分や友達の考え方を図表を使って分かりやすく説明できる児童が増えてきた。
- 学習内容の定着において、個人差が大きく、繰り返し反復練習する時間を確保する必要がある。
- 作図では、角度や直線に分度器を合わせて測ることのできない児童が多い。
- 積極的に説明する児童と説明をしたくない児童で二極化してきている。

- 自力解決の場面において、公式や解き方は知っているが、既習事項を用いて解き方を考えて、どうしてその公式が使えるのかを説明することができない児童が少なくない。個人差が大きく自力解決が苦手な児童が見られる。
- 既習事項の定着の差が大きい。四則演算での計算ミスや、計算に時間がかかるため、課題に最後まで辿り着きづらい児童がいる。
- 分数の文章題に苦手意識をもち、除法と乗法を逆に立式してしまう児童が多く見受けられた。計算はできるが、立式や約分することについての理解が深まっていない児童がいる。
- 答えることの自信がなかったり、すぐに周囲に答えを聞いてしまったりする児童がいる。また、全体の前で説明することへの抵抗感が全体的に強い。
- 用語の意味や定義を正しく理解して使えている児童が少なくない。

	低学年	中学年	高学年
授業改善の具体的な手立て	1 年	3 年	5 年
	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①整理して表す ②言葉・図・式を用いて表す。 ③比べる活動をする ④見付ける ⑤作る・分解する ⑥式に表す ⑦式に場面を結び付ける</p> <p>○興味をもって取り組めるように、身の回りのものや具体物を用いた活動を積極的に取り入れる。</p> <p>○分かりやすいノート作りを意識させる。</p> <p>○学習の振り返りをする中で、個々の学習意欲や内容理解の様子をより詳しく掴めるようにする。</p> <p>○百玉そろばんや算数ブロックなどの具体物の活用や、プリント、ドリルパーク等のアプリケーションを活用して計算練習を繰り返し行い、計算を念頭操作で行えるようにしていく。</p> <p>○全体で発表する前に、隣同士などのペアや、少人数グループで全員が発表する機会を設け、学び合う楽しさや安心感をもたせて、多様な見方ができるようにする。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p> <p>○加法や減法の問題作成をする学習を取り入れ、学習の定着を図る。</p> <p>○計算問題を解くだけでなく、計算の仕方を説明できるようにする。</p>	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①問題意識をもつ ②自分の考えをもつ ③考えを相手に分かりやすく伝わるように表現する ④具体物・図・数直線で表す ⑤比べる ⑥調べる ⑦作図する ⑧分類整理する ⑨式に表す</p> <p>○目的意識をもたせるために、単元の導入を工夫する。</p> <p>○何を学ぶのか明確なめあてを立てる。</p> <p>○既習の学習事項を使って、自分の考えの根拠や問題解決の過程をノートに書く活動を多く取り入れる。また、それを発表する時間を設ける。</p> <p>○友達の考えた式や図を読む活動を意図的に取り入れる。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p> <p>○ペアや少人数での話し合いなどの交流の場面を増やし、自分の考えを言葉にしたり、友達の考えの分かりやすい説明の仕方を紹介したりする経験をすることで表現力を高めていく。</p> <p>○数学的活動や身の回りのもの、既習事項を活用して問題を解く学習を取り入れ、児童の興味・関心を高めていく。</p>	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①見付ける ②見通しをもつ ③仕方を考える ④解決する ⑤関係を調べる ⑥説明する ⑦考えを深める</p> <p>○ノート指導を通して、既習事項を活用し、数学的な考え方を基に自力解決できるようにする。</p> <p>○公式や解き方を理解しているが、説明できる児童は少ないので、公式につながる解法や単位の意味に結びつけて、根拠を持って説明できるようにする。</p> <p>○少人数での話し合い・集団での考え方の練り上げが充実するよう、話し合い活動に重点を置いて指導する。互いの考えを比較・検討し、振り返って考える時間を確保する。</p> <p>○図や数直線、数の置き換え等を活用し、視覚的に考えを整理し、立式する力を育成する。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○作図問題の反復や、ペアでの確認作業を行うことで、作図の技能を高めていく。分度器、コンパス、三角定規を用いる作図が苦手な児童が多いので、単元以外でも時折、作業を取り入れながら、定着できるようにする。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>

2 年	<p>○下記の項目をキーワードとして学習活動を進める。</p> <p>①見付ける ②構成する ③観察する ④見当を付ける ⑤測定する ⑥書く ⑦作る ⑧敷き詰める ⑨図や式に表す ⑩説明する</p> <p>○ノートは見開きで使用し、友達が見ても分かりやすいノート作りを指導していく。</p> <p>○思考・表現力を伸ばしていくため、1時間の中で思考する場面を意図的に設定していく。</p> <p>○教師が説明の仕方を示したり、友達の分かりやすい説明を紹介したりすることで、表現力を高めていく。</p> <p>○自分の考えを友達同士で紹介し合う場面を設け、考え方を説明する経験を積ませる。</p> <p>○互いに説明し合う中で、友達の分かりやすい表現の仕方を学んだり、紹介し合ったりする。</p> <p>○単元後も学習した内容の問題を継続的に解くことで、知識の定着、計算・技能の正確性を高めていく。</p> <p>○ペアや全体での学び合いを通して、「今まで気付かなかったことが気付けた。」と児童が実感できる授業を行っていく。</p> <p>○ICT機器や電子黒板を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。</p>	4 年	6 年
--------	---	--------	--------

	低学年	中学年	高学年		
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブロックを用いることで、興味をもって取り組む児童が増えた。</li> <li>○拡大投影機を使ってノート指導を行ったことで、書くことが苦手な児童もスムーズにノートを書けるようになってきた。</li> <li>○自分の考えを説明する際、その根拠を半具体物の操作や図を用いて説明することができるようになってきた。</li> <li>○自分の考えを幾通りもノートに書く活動を増やして、様々な考え方を思いつく児童が増えた。</li> <li>○拡大投影機やマス黒板を活用しながらノート指導を行い、式や答えだけでなく、図や言葉を用いて考えることができるようになってきている。</li> <li>○学習の振り返りを行い、自分の考えをまとめたり、発表したりすることで、学習意欲を高めたり、友達と自分の考えを比べたりすることができるようになってきている。</li> <li>○計算カードを使用することで、ゲーム感覚で学習に取り組むことができた。</li> <li>○タブレットを活用して友達の問題を解くなどで、交流が活発になり、意欲も高まった。</li> <li>○ペアやグループ、尋ね歩き等で、考えを発表する機会を増やし、考えをすすんで発表できる児童が増えた。</li> <li>○時計の読み方、時刻や時間を生活の中で意識させた。</li> <li>●活動をする際に何が必要かを示し、机上を整理整頓させて活動に集中させる。</li> </ul>	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章問題を捉える際、必要な情報と聞かれていることを確認するとき下線を引いて正しく文章問題を捉えられるようになった。</li> <li>○既習事項を確認させることで、問題解決に向けた根拠として活用することができるようになった。</li> <li>○隣の人やグループの中で確認したり、話し合ったりする活動を取り入れることで、表現したり受容したり考えを高め合ったりする機会を設けることができた。</li> <li>○デジタル教科書の活用により、児童に視覚的に理解を促し、深めることができた。</li> <li>○ペアや少人数の話し合いの設定により、自分の意見を友達に伝えることができる児童が増えた。</li> <li>○友達の考えを参考にして、自分の考えをもてるようになってきた。</li> <li>●技能や知識・理解の差が大きくなってきている。一人一人の状況を見取り、個に応じた指導を工夫していく必要がある。</li> <li>●ペアや少人数での話し合いなどの交流の場面を増やし、自分の考えを言葉にしたり、友達の考えの分かりやすい説明の仕方を紹介したりする経験をすることで、表現力を高めしていく必要がある。</li> </ul>	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノート指導を通して、既習事項を活用し、自力解決したり、複数の考え方で求めようとしたりする児童が増えてきた。</li> <li>○説明の際、話型を用意したり、同じやり方でも、自分の言葉で順序立てて説明する機会を多く設けたりしたことで、説明の仕方を身に付けたり、自信をもって発表をする児童が増えてきた。</li> <li>○ICT機器や電子黒板を活用することによって、視覚的に分かりやすく、理解しやすくなった。</li> <li>●知識・理解の定着度が低い児童は、意欲も低い傾向がある。具体物の操作や具体的な問題を提示して、計画的に学習していく。</li> <li>●自分が解き終わって満足と感じている児童がまだ多いように感じるので、ペア活動や班活動の機会を増やし、協働的な学習を促していきたい。</li> </ul>

<p>2 年</p>	<p>○ノートの使用方、取り方を継続的に指導したことで、ただ黒板に書いてあるものを写すだけでなく、調べたことや考えたことを積極的に書くようになってきている。</p> <p>○説明や表現の仕方の例示を継続的に行ったことで、順序立てたり、分かりやすさを意識したりして説明できるようになってきている。</p> <p>○式と図を関連付けて表すことで、式の意味を考えるようになった。</p> <p>○九九を九九の歌やタブレットを使って練習することで、意欲的に学習に取り組んだ。</p> <p>○学習した内容の問題を繰り返し解くことで、知識の定着、正確性を高めることができた。</p> <p>○デジタル教科書の活用は、繰り返し上がりや繰り返し下がりやの筆算の仕組みを児童が視覚的に理解するのに効果的であった。</p> <p>○ペア学習や席を立って友達同士で考えを伝え合う活動を設定したことで、自分の考えを説明する機会が増え、友達の多様な考え方に触れることができた。</p> <p>●学習したことを活用して解く問題や、記述説明を要する問題を苦手とする児童が多くいる。様々な問題に触れる機会を増やしたり、解答を全体で確認した後、再度類題を解いたりすることで、習熟を図っていく。</p> <p>●習熟状況によっては、タブレットを積極的に活用して、個別の学びを充実させる。</p> <p>●時計の読み方、時刻や時間を生活の中で意識させていく。</p>	<p>4 年</p> <p>○自力解決のとき、既習事項を使って説明する力が身に付いてきている。</p> <p>○諦めずに時間をかけて問題に取り組む姿勢が見られるようになった。</p> <p>○問題を考える時、図を使って立式し、言葉で説明できる児童が増えた。</p> <p>○友達の式や意見から、自分の考えを広げたり、深めたり、また新たに作り直したりする児童が見られるようになってきた。</p> <p>○電子黒板、タブレットの活用により、児童に視覚的に理解を促し、深めることができた。</p> <p>○児童同士で自分の考えを説明したり、教え合ったりする場面が見られた。</p> <p>●垂直や平行、四角形の作図が正確にできない児童がいるため、作業をする時間を確保し、技能の習熟へつなげていく。</p> <p>●面積の求め方は理解できている、<math>m^2</math>を<math>cm^2</math>に変換したり、<math>a \cdot ha</math>への理解があいまいだったりなど、単位のつまずきが見られた。ICTを活用し、実感の伴った理解となるよう改善していく必要がある。</p> <p>●計算や問題の読み間違いなどのミスが多い。見直しをする習慣を付けさせて、ケアレスミスをなくしていく。</p>	<p>6 年</p> <p>○自力解決の際、既習事項を活用して説明する力が身に付いてきている。また、複数の方法で解答を導き出すことができるようになった。しかし、知識を生かして自分の言葉で説明できる児童は、個人差がある。</p> <p>○立式の際、図や数直線を用いて説明をする活動を設定したことで、自力で立式できる児童が増えた。</p> <p>○数学的活動や既習事項を活用して問題を解く学習を取り入れるなど、課題を工夫することで児童の主体的な学習に向かう態度を高めることができた。</p> <p>○具体物の操作活動を行うことで既習の知識と結び付けて考えることができた。</p> <p>●発言する児童が固定化してしまうことがあった。普段の授業からスモールステップで発言する機会を多く設けたり、確認問題などを意図的に取り入れたりして、発言への抵抗感を下げていく指導が必要である。</p> <p>●すぐに答えを聞いてしまう児童や考えることができない児童がいるので、粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせる必要がある。</p> <p>●自分が解き終わって満足と感じている児童がまだ多いように感じるので、ペア活動や班活動の機会を増やし、協働的な学習を促していく。</p>
----------------	---	---	---